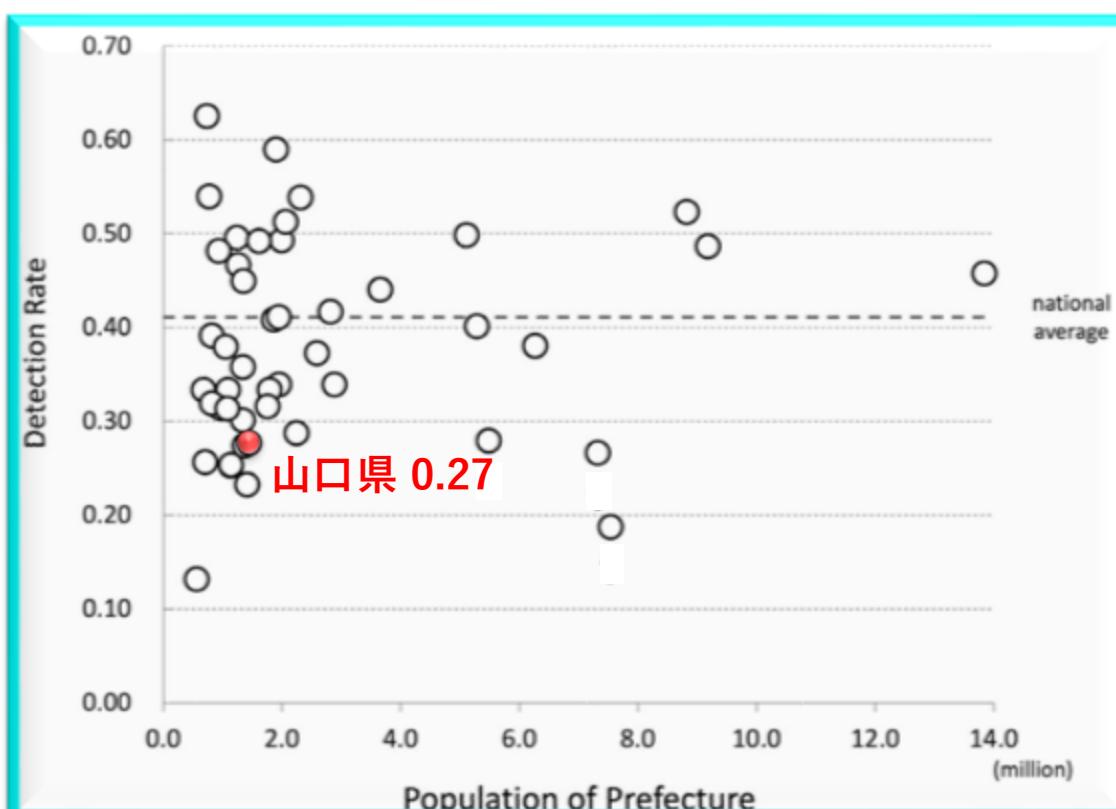


日本胎児心臓病学会スクリーニング委員会
山口県 アクションプラン

総合病院山口赤十字病院産婦人科
月原 悟

胎児心臓スクリーニング検査の向上をめざして 山口県

都道府県民人口当たり 重症先天性心疾患の胎児診断率



Matsui et al (2021)を改変

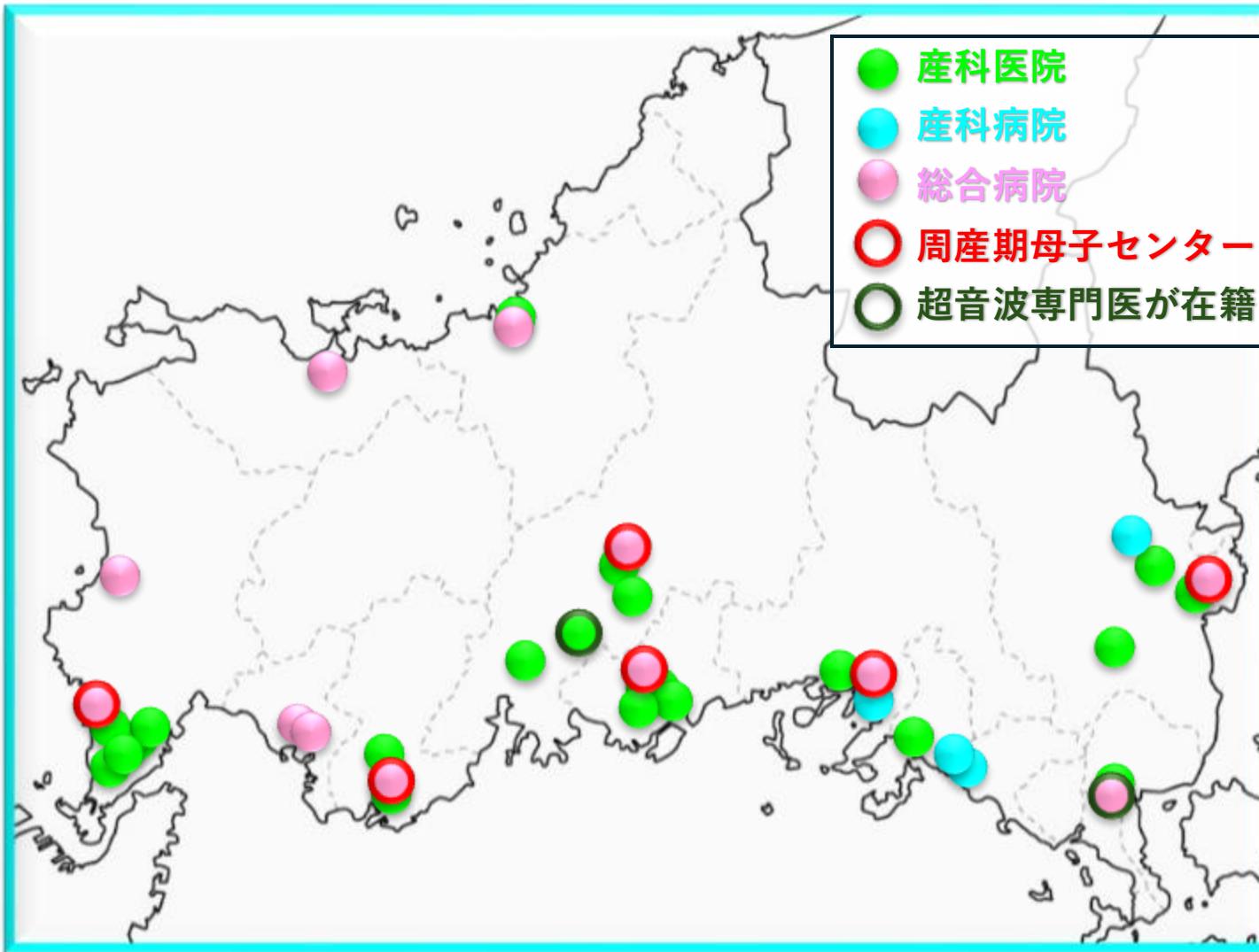
Detection Rateの算出方法

$$\frac{\text{分母のうち胎児診断症例数}}{\text{当該県で出生し手術を要した先天性心疾患の症例数}}$$

<胎児診断率が低くなりやすい理由>

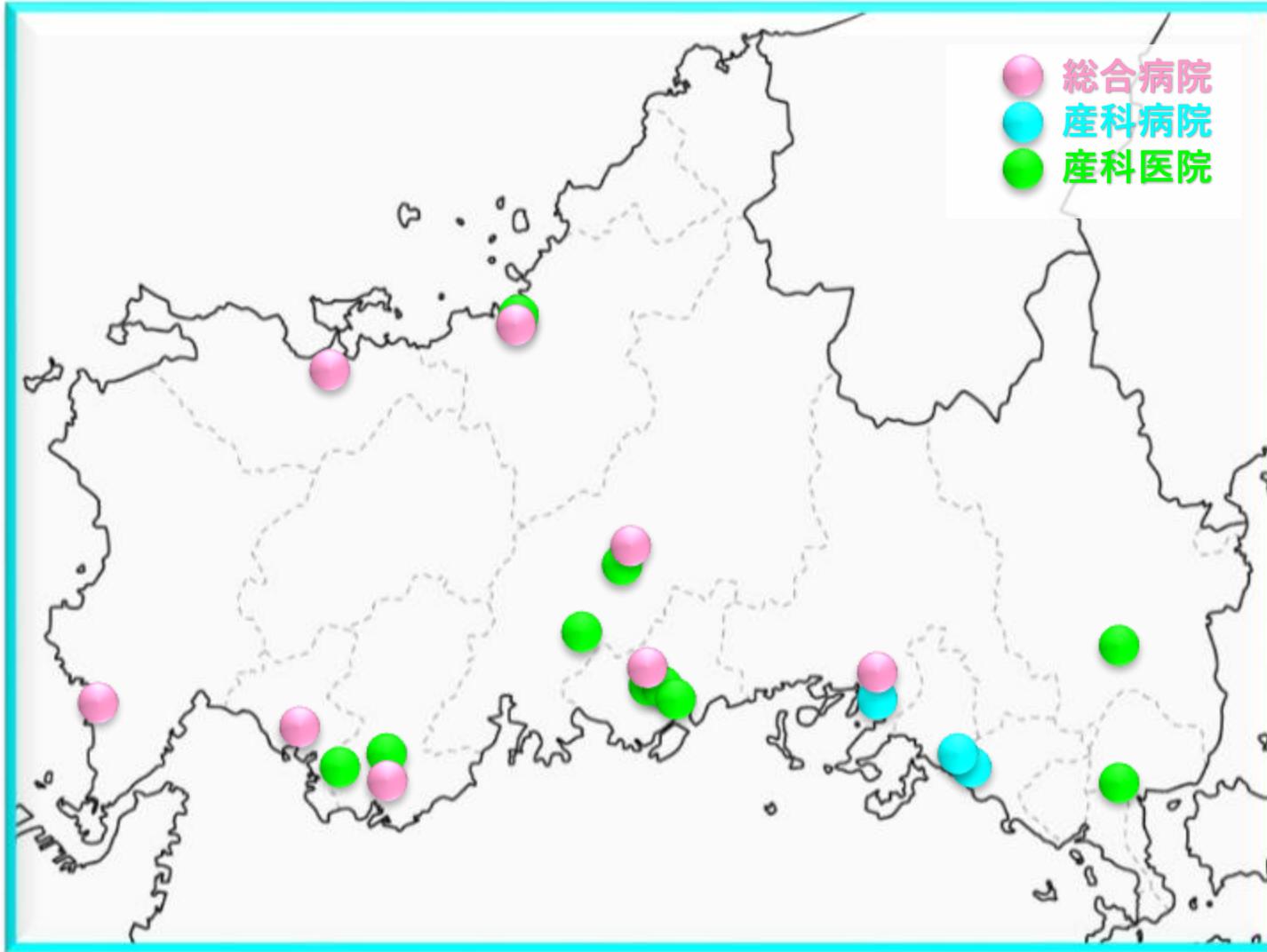
- ✓ 県内に新生児の心臓手術が可能な施設がない。
- ✓ 胎児診断症例が県外で分娩することも多い。
- ✓ 結果として未診断症例が県内で分娩するため。
- ✓ 2020年以降は山口大学で新生児管理する症例が増加している。

先天性心疾患(CHD)の胎児診断率向上に向けて 現状把握のためのアンケート調査



- ✓ 2022年12月に調査
- ✓ 産科医院；24施設
- ✓ 産科病院；4施設
- ✓ 総合病院；12施設
- うち周産期医療センター 6施設

アンケート回収元



- ✓ 回収率 20/40 50%
- ✓ 二次および三次施設 5/6
CHDの管理 1施設のみ可能
他は診断のみ
- ✓ 一次施設 15/34

アンケート結果から

心臓スクリーニング検査

行っている 16/20 80%

行っていない

実施時期

初期と中期

中期のみ

中期と後期

3回以上

2

6

4

4

記録方法

専用チェックリストあり

8

専用テンプレートは用いない

6

異常所見のみ

2

未実施と回答した4施設からの意見に注目

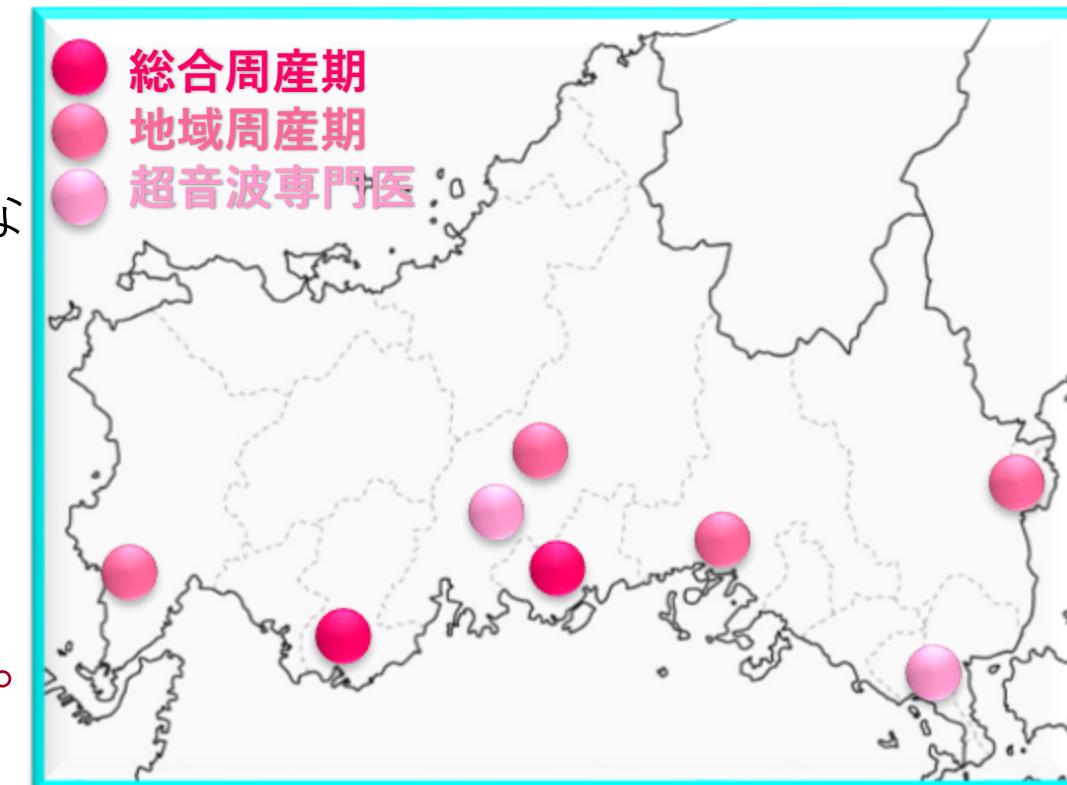
- ✓ 時間がない
- ✓ レーニングを受けていない
- ✓ 自信がない
- ✓ 疾患ごとの超音波画像を簡単に比較したい etc.

✓ 自由記載でいただいた意見

マンパワー不足の施設では時間的にも困難なため、集約化してスクリーニングするのが良いのでは。

✓ 山口県内は人口の多い山陽側を中心に周産期センターが分布しているので将来的にスクリーニングの集約化が実現可能なのでは。

} 次のスライドへ



胎児先天性心疾患診断率向上に必要なこと

- ✓ 16/20(80%)の施設は胎児心臓スクリーニング検査を実施している。
- ✓ 胎児診断率の低さは … 無回答の20施設の影響?
→ 精度の問題ではないか。自信は最初はなくて当然。
- ✓ 具体的な先天性心疾患の画像を産科医も知っておくのか?
発想の転換が必要!! 産科医の強みは「正常を毎日診られること」
- ✓ 正常心臓の確認は**20秒**で十分可能になる。
胎児の顔を見るための3D/4Dエコーの時間 ≈ **20秒**
産科医は胎児の顔を描出するための努力を惜しまなかった。
- ✓ 産科医なら日々のトレーニングが日常臨床で可能である。
- ✓ 正常以外は精査にまわすことで未診断の先天性心疾患は激減するはず。



胎児先天性心疾患診断率向上への取り組み

- ✓ 2025年3月6日(木)に第10回山口県胎児診断治療研究会 超音波セミナーを開催した。

[いつもの妊婦健診に+20秒 胎児心臓スクリーニング]

県内の産婦人科医会会員に案内を送り、約60分の現地開催およびライブ配信を行った。

- ✓ 主なターゲットは妊婦健診を扱う一次スクリーニング施設(34施設)であったが、8施設のみ聴講していただけた。

二次施設にはおむね聴講していただいた。

- ✓ 今年度も一次スクリーニング施設向けにセミナーを開催したい。

- ✓ 胎児診断が可能であったはずの先天性心疾患罹患児

→出生後に新生児科、循環器科があわてて対応する

→ご両親も医療者も困惑する

→それって未受診新生児じゃないですか…

